

第3章 高齢社会を生きる

★ 高齢期の発達課題を知ろう。(▶教科書 p. 15)

① (65) 高齢期 (歳)	学習者として生きる	職業にかかわって生きる	家族・地域社会と関わって生きる	
			家族	地域社会
	・② (生涯), 学習者として学ぶ。 ・これまで生きてきた歴史をすべて受け入れ, 自我を③ (統合) する。	・生涯, ④ (現役) として, 多様な分野で活躍する。 ・職業に関する知識と技術を⑤ (伝承) する。	・やがて迎えるパートナーや自分の死に対する⑥ (心の準備) をする。 ・生活文化や⑦ (経験) を伝承する。 ・⑧ (地域支援体制) を利用し, 参加する。 ・周囲の人々となつながら, ⑨ (生きがい) を持つ。	

▼ 教科書 p. 60~63

① 高齢期を理解する (1、人の一生と高齢期 / 2、高齢社会の現状と課題)

1 人の一生と高齢期について, 次の言葉とその説明を線で結ぼう。

- | | | | |
|---------|--------------|-----------------------|--|
| ① 高齢者 | ア | ア 65~74 歳の高齢者 | |
| ② 高齢化社会 | イ | イ 高齢者人口割合が 7% を超えた社会 | |
| ③ 高齢社会 | ウ | ウ 65 歳以上の者 | |
| ④ 前期高齢者 | エ | エ 高齢者人口割合が 14% を超えた社会 | |
| ⑤ 後期高齢者 | オ | オ 75 歳以上の高齢者 | |

2 高齢社会の現状と課題について, まとめよう。

(1) 日本の平均寿命の推移について, 空欄に当てはまる数字を答えよう。

	1947 年	1970 年	1990 年	2020 年
平均寿命 (男)	50.1 歳	① (69.3) 歳	75.9 歳	③ (81.6) 歳
(女)	54.0 歳	② (74.7) 歳	81.9 歳	④ (87.7) 歳

(2) 人口の高齢化について, 次の文章の空欄に当てはまる言葉や数字を答えよう。

人口の高齢化とは, 死亡率や① (出生率) の低下が起こり, 社会の人口全体の中で② (高齢者) の割合が高まることをいう。日本の場合, 戦後の③ (ベビーブーム) の後出生率が急激に低下して, ④ (少産少死) 型社会に向かい, 1970 年には⑤ (高齢者人口割合) が 7% を超え, ⑥ (高齢化社会) の仲間入りをした。その後, 1970 年代の半ばから⑦ (晩婚) 化などにより出生率がいっそう⑧ (低下) し日本の高齢化は欧米先進国のどの国より速く進行した。その後も出生率はますます低下し, ⑨ (少子) 化として問題化し, 人口の高齢化を加速させている。2005 年には前期高齢者が全人口の⑩ (11) %, 後期高齢者が⑪ (9) % を超え, 合わせて高齢者人口割合は⑫ (20) % を超えた。

3 高齢者と家族の役割について、考えよう。

(1) 図1の①～④に当てはまる言葉を選択肢から選び、記号で答えよう。

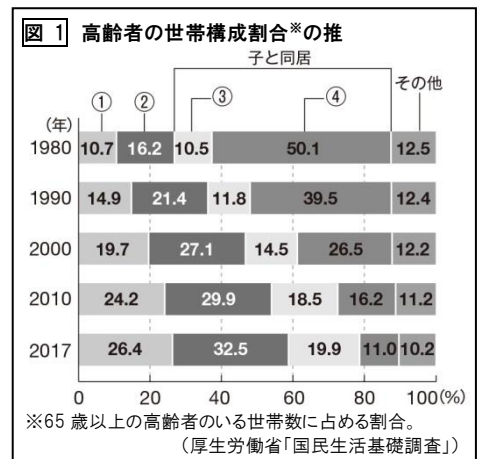
① (ウ) ② (エ) ③ (イ) ④ (ア)

選択肢	
ア 三世代世帯	イ 未婚の子と同居
ウ 単独世帯	エ 夫婦のみ

(2) 次の文章の空欄に当てはまる言葉を答えよう。

戦前の日本では、① (家) 制度のもとで、長男が結婚後も親と② (同居) し、必要なら③ (介護) をすることが当然の義務だとされてきた。しかし、戦後、(①) 制度は廃止され、高齢者と子どもとの(②) 率が低下してきた。高齢者の側にも、できる限り子どもに頼らず、④ (健康) で⑤ (自立) した生活を維持し、⑥ (生きがい) を持って生活したいという気持ちが強くなってきている。それでも家族は高齢者の精神的な支えとなることができるし、福祉サービスの利用について高齢者と共に考え、⑦ (地域社会) への窓口となるなど、これからも大きな役割を担う存在である。

(3) あなたが将来介護を必要とするようになったとき、介護事業者に頼みたいこと、家族にしてもらいたいと思うことは何だろうか。右の表で考えてみよう。(教)p. 62 TRY



	家族	事業者
入浴、着替え		
排泄		各自記入
掃除、洗濯		
買い物		
食事の支度		
食事の介助		
お盆、お正月の行事		
誕生日会		

▼ 教科書 p. 64～65

② 高齢者の心身の特徴 (1、老化と成熟 / 2、多様な高齢者)

1 老化と成熟について、まとめよう。

(1) 次の言葉を説明しよう。

- ①老化 (身体機能がピークを迎えた後に低下していく過程。)
- ②成熟 (年を取り、より知識が増え、経験を積み、豊かな人間関係を築き、より総合的な判断ができるようになる過程。)
- ③エイジズム (高齢者を一様に機能の低下した存在だと考える、年齢に基づく差別。)

(2) 老化によって低下(減少)するもの、増加するもの、あまり変化しないものを選択肢から全て選び、記号で答えよう。

- ①低下(減少)する (ア、イ、オ、カ、キ、ケ)
- ②増加する (エ、ク)
- ③あまり変化しない (ウ)

選択肢	ア 視力	イ 病気に対する抵抗力	ウ 言語能力	エ しわ	オ 筋肉量
	カ 回復力	キ 聴力	ク 白髪	ケ 温度変化への適応力	

▼ 教科書 p. 66～71

③ これからの高齢社会（1、高齢社会を支える仕組み / 2、高齢社会の将来像）

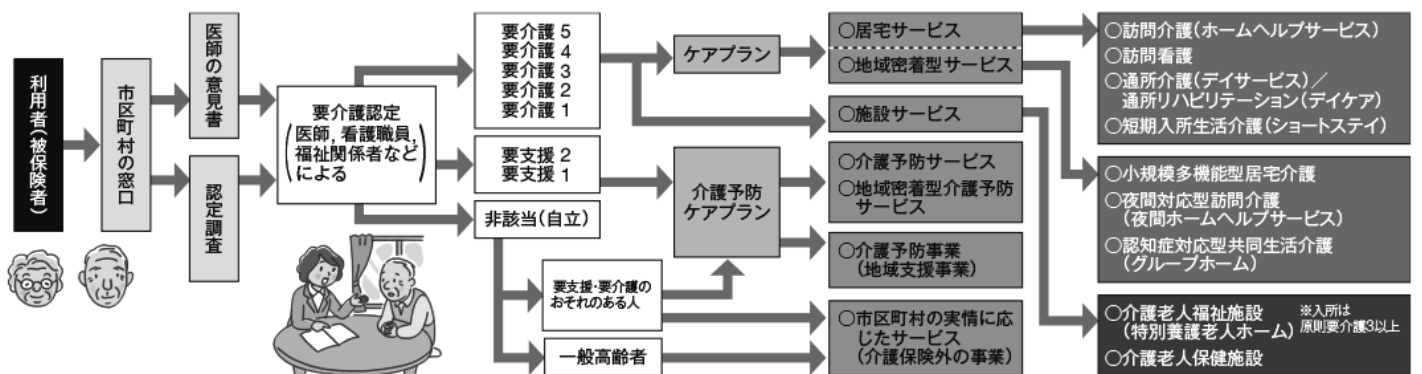
1 高齢社会を支える仕組みについて、考えよう。

(1) 次の文章の空欄に当てはまる言葉や数字を答えよう。

介護の社会化を目指す①（ **介護保険** ）が2000年から導入され、日本に住所を持つ②（ **40** ）歳以上の者は全て加入し、月々保険料を支払うようになった。また、2005年の改正では③（ **介護予防給付** ）が追加され、④（ **地域包括支援センター** ）が創設された。

介護サービスを利用したい場合は、⑤（ **介護保険被保険者証** ）を添えて⑥（ **市町村** ）に申請する。⑦（ **訪問調査員** ）が調査し、判定の結果、介護支援専門員（⑧（ **ケアマネジャー** ））が介護サービス計画（⑨（ **ケアプラン** ））を立てる。市区町村は⑩（ **要介護** ）認定を行うが、利用者は都道府県の指定を受けた民間企業やNPO法人、医療機関などの⑪（ **サービス提供者** ）と契約を結ぶ。（⑩）度に応じて定められた給付額の範囲ならば、⑫（ **1** ）～⑬（ **3** ）割（施設ではほかに食費など）を自己負担することでサービスを利用できる。

② 介護保険の仕組み



(厚生労働省資料より作成)

(2) 次の施設やサービスの名称とその説明文を線で結ぼう。

- | | | | |
|-------------|---|---|--|
| ① デイサービス | ● | ア | 通所介護。高齢者が送迎バス等で通い、入浴、食事、健康診査、日常動作訓練等のサービスを受ける。 |
| ② 特別養護老人ホーム | ● | イ | 短期入所生活介護。施設に短期間入所し、日常生活の介護や訓練を受ける。 |
| ③ ショートステイ | ● | ウ | 介護老人福祉施設。常時介護が必要で自宅での生活が困難な人が入所し、日常生活上必要な介護や機能訓練、療養上の世話などを受ける。 |

2 年金制度とその説明文を線で結ぼう。

- ①企業年金 ~~ア~~ サラリーマン等が加入する。通常の社員の労働時間・労働日数の約3/4以上働いていれば、パートやアルバイト、契約社員なども^{すべて}加入することになっている。
- ②厚生年金 ~~イ~~ 企業が従業員の老後生活を保障するために運営する制度。企業ごとに異なる。
- ③国民年金 ウ 日本に住所を持つ20歳以上60歳未満の者が全員加入する。

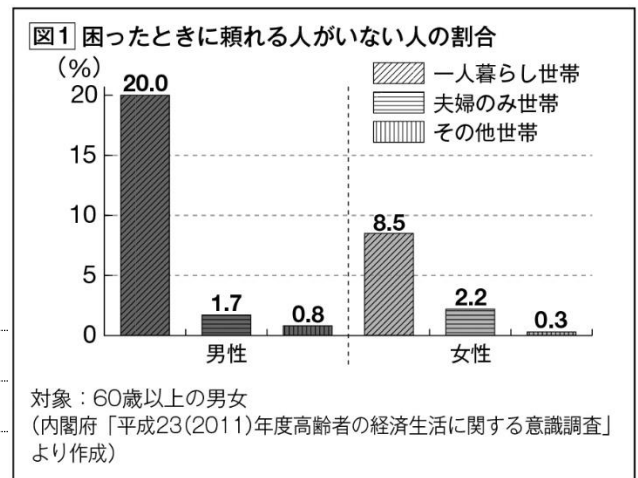
3 日常生活の自立の課題について、**図1**を参考にして考えよう。

(1) 困ったときに孤立しやすいのはどのような人だろうか。

(1人暮らしの高齢者)

(2) 高齢者の社会的孤立を防ぐために、自分ができることは何か。地域や行政単位ではどうか。

- ・ 高齢者を見かけたら、挨拶をして、気にかけている人がいることに気づいてもらう。
- ・ 町内会単位で、お茶会を開いて、積極的に外に出てもらうような機会をつくる。
- ・ 見守りのシステムを作る。



4 高齢社会の問題について、まとめよう。

(1) 次の文章の空欄に当てはまる言葉を答えよう。

① (後期) 高齢者の増大に伴って、虚弱な高齢者や② (要介護) 高齢者が増加していくと予測される。更に高齢者と子どもは同居③ (しない) 傾向にあり、④ (一人暮らし) や⑤ (高齢者夫婦) のみの世帯が増えていくと思われる。次第に⑥ (老老介護)、別居の家族による介護、⑦ (事業者) による介護が増えている。

(2) 高齢者の増加や介護の⑧ (長期化) に伴い、家族の⑨ (介護疲れ) やストレスによる⑩ (高齢者虐待)などが問題化している。

5 地域社会の役割について、考えよう。

(1) 次の言葉を説明しよう。

①地域包括ケアシステム

(誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療や介護、住まい、生活支援サービスなどが包括的・継続的に利用できるシステム 。)

②健康寿命

(自立して健康な日常生活を送ることができる期間 。)

▼ 教科書 p. 152～157

①住生活について考える（1、住居の機能と変化 / 2、平面図を理解する）

1 住居の機能について、まとめよう。

(1) 次の文章の空欄に当てはまる言葉を答えよう。

住居は自然災害や①（**風雨**）・②（**寒暑**）から身を守る
 ③（**シェルター**）（避難所）であり、家族が学校や仕事場から帰宅し、食事や家族**団らん**をして
 ④（**リラックス**）し、入浴し睡眠を取り、リフレッシュするための場所である。また、子どもを育
 てる場、⑤（**介護**）の場、⑥（**趣味**）の場、**しんせき**や知人を招くなどの人との
 ⑦（**コミュニケーション**）の場、自営や在宅勤務の人にとっては⑧（**職業生活**）の場でもあり、
 住居は家族のあらゆる生活の⑨（**拠点**）である。

(2) 「2LDK」はそれぞれ何を表しているか、答えよう。

- ① 2（**個室数**） ② L（**居間**）
- ③ D（**食事室**） ④ K（**台所**）

2 平面図について、次の言葉の意味を説明しよう。

- ①間取り （**住宅内に部屋数の配置を計画すること。**）
- ②動線 （**人が移動する軌跡。**）
- ③平面図 （**平面計画を図にしたもの。**）
- ④食寝分離 （**食事室と寝室を分けるという考え方。衛生的で機能的である。**）

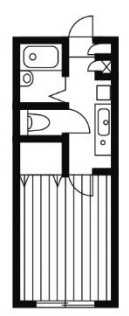
4 図2の物件を借りる場合について、の初期費用を計算しよう。

- 敷金：家賃の2か月分 50,000円×2＝（**100,000**）円（a）
- 礼金：家賃の2か月分 50,000円×2＝（**100,000**）円（b）
- 仲介手数料：（上限である家賃の1か月分とする）（**50,000**）円（c）
- 前家賃（管理費込）：50,000円＋（**2,000**）円＝（**52,000**）円（d）

(a) + (b) + (c) + (d) = 合計 （**302,000**）円 ※その他この契約以外に引っ越し費用などもかかる。

図2 物件情報の例

種目	貸しアパート	家賃	50,000円	管理費	2,000円
間取り	1K（洋6・K2）	礼金	2か月	敷金	2か月（敷引なし）
交通	〇〇線△駅 徒歩10分	保険	火災保険あり（2年間24,000円）		



★スーパーまで徒歩4分
 ★〇〇大学まで徒歩3分！
 ★2人入居不可

設備

○エアコン	○給湯
○バス・トイレ独立	○収納室
○室内洗濯機置き場	○シャワー
○都市ガス	○フローリング
○1口コンロ	○駐輪場

所在地	〇〇県△市△1丁目	築年月	2010年3月
構造	木造	階/階建	1階/地上2階建
方位	南	駐車場	なし
入居日	3月下旬	契約期間	2年（更新料家賃1か月分）

★知っておきたい基礎知識！

1畳
→ 約（**180**）cm × （**90**）cm

1間
→ 約（**180**）cm

1坪
→ （**2**）畳 約（**3.3**）m²

5 平面図について、考えよう。 TRY

※**図1**は、父、母、兄、自分の4人家族の家を平面図化したものである。

各自記入

(1) **図1**を次の4つの生活空間に塗り分けよう。

個人生活空間	赤色	生理衛生空間	青色
共同生活空間	黄色	家事労働空間	緑色

各自記入

(2) 2階の南西の部屋が自分の部屋だとして、帰宅後の行動の動線を書き入れよう。

例：玄関から入る→洗面所で手を洗う→冷蔵庫から牛乳を取り出す→食卓に座り牛乳を飲む→流し台でコップを洗う→1階トイレに入る→階段を上がる→自分の部屋の学習机に座る

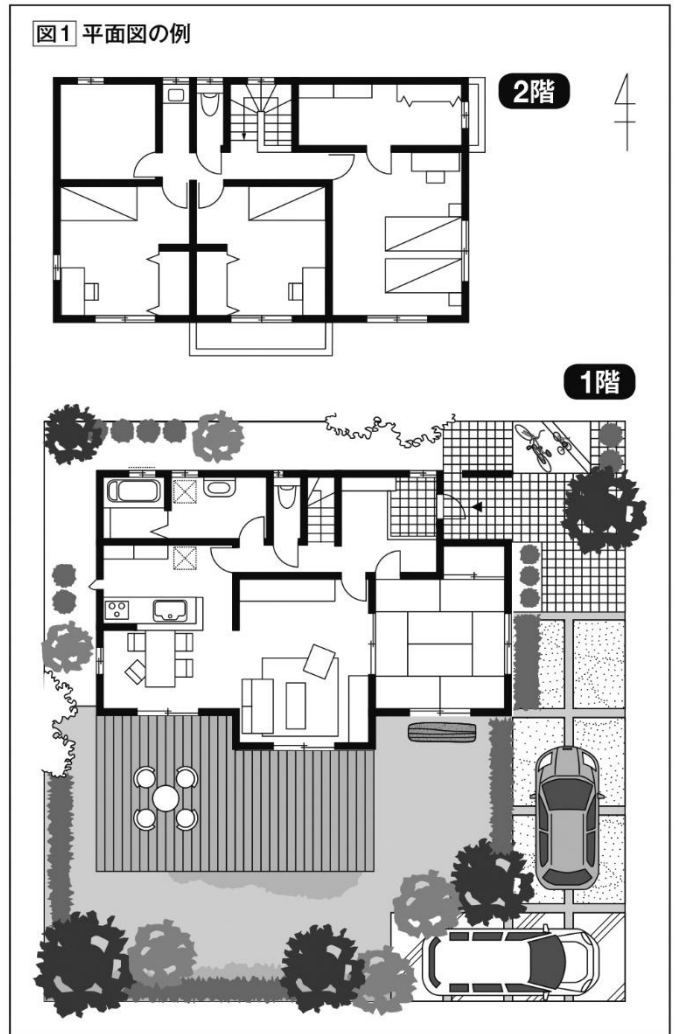
(3) 高齢の祖父母が同居することになったとき、どの部屋に住むのが適切だろうか。また、その理由を考えよう。

①部屋 1階和室

②理由

- ・1階にあり、階段の昇降の必要がない。
- ・独立した空間だが、居間との距離が近いため、コミュニケーションがとりやすい。
- ・トイレが近い。・南側を向き、庭に面しているから。

図1 平面図の例



▼ 教科書 p. 158～159

②住生活の計画と選択①(1、安全で快適な住生活)

1 ライフステージごとの住要求の例について、関連する内容を線で結ぼう。

- | | | |
|-------|---|---|
| ①乳幼児期 | ア | 家族構成や就業の変化が多く子育てや親の介護をすることもある。住宅選択（増改築、建て替え、引っ越しなど）の機会が生じやすい。 |
| ②児童期 | イ | 住居内の事故が起きやすくなる。バリアフリー化やリフォームが必要になる。住み慣れた住環境を大切にする。 |
| ③青年期 | ウ | 親との同一室就寝が多い。親の姿が見える範囲で遊べる環境が必要。静かに就寝できる環境が特に必要。 |
| ④壮年期 | エ | 親と別室就寝。机が必要だが、学習机を使うとは限らない。住宅事情が許せば個室を持つことになる。 |
| ⑤高齢期 | オ | 個室要求が強く、自己表現の場となる。男女別室で就寝する。一人暮らしをすることもある。 |

▼ 教科書 p.160～163

②住生活の計画と選択②(2、健康な住生活 / 3、誰もが住みやすい住居)

2 自然災害・人為災害や住居内の事故について、自分の住居をチェックし、対策を取ろう。

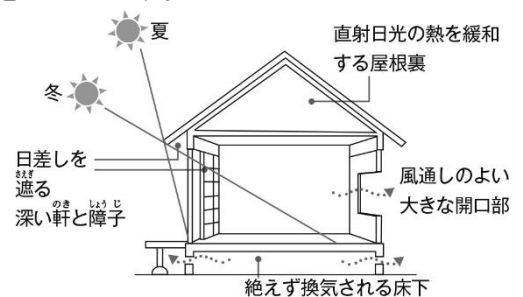
	チェック項目	○か×
自然災害	家具は、転倒、移動、飛び出しなどがないようにしっかりと固定している。	各自記入
	家具が倒れても、寝床や出入口に重ならないよう配置している。	
	積み重ね家具は金具で上下段を固定している。	
	ガラスや食器の飛散を防ぐために、フィルムや耐震ラッチを付けている。	
	非常用持ち出し袋を用意している。	
	自分が住む地域のハザードマップを確認したことがある。	
	家族全員と安否確認方法や避難場所を共有している。	
人為災害	住居が十分な耐震（または免震・制振）性、耐風性、耐火性を備えている。	
	外壁や内装に不燃材が使われている。	
	戸締まりを厳重にしている（ドアや窓などの二重施錠、ドアチェーンの使用など）。	
	玄関や庭などに屋外照明がある。	
住居内の事故	近所の人が見ている。声をよくかけ合う。	
	廊下などで家族が出合い頭にぶつからないような動線になっている。	
	つまずいて転倒しないよう、床面や家具周りが整理・整頓されている。	
	火気や暖房器具は、火災にならないよう管理されている。	
	部屋を定期的に換気し、空気汚染を防止している。	
	風呂や洗面所などに滑りにくい床材が使用されている。	
	上階の窓やベランダに転落防止の柵がある。踏み台になるものが置かれていない。	
	段差がない。バリアフリーである。	
階段や浴室、トイレなど、必要な場所に手すりがある。		

3 健康な住生活を送るために大切な次の各要素についてポイントをまとめよう。

①日照・採光 太陽光の働き：(明るさ) (熱) (殺菌)

・採光のための窓などが必要→居室の床面積の (1/7) 以上
(建築基準法：建ぺい率，容積率)

・なるべく冷暖房に頼らない季節ごとの日照の工夫を挙げてみよう。
(夏：すだれやカーテンなどで遮る。 冬：カーテンをあける。)



②通風・換気 空気循環・交換の有効性：(温度) (湿度)

・湿度が高いと→ (結露) (かび) ダニなどの問題が発生しやすい

・換気の種類→自然換気：窓を開けて風を通す，(機械換気)：換気扇による空気交換

③暑さ・寒さ 快適に過ごすための適切な温度と湿度 *目安であり、個人差があるので注意しよう

- ・暖房時室温 (18 ~ 22) °C
- ・冷房時室温 (25 ~ 28) °C *なるべく室内外の温度差を5~6°Cに抑えよう
- 例) 猛暑で外気が35°Cの時の冷房は? (29 ~ 30) °C
- ・湿度 (40 ~ 60) %



(国土交通省「国土交通白書」2016年より作成)

④室内環境汚染 (②と関連)

- ・高気密・高断熱の住居の増加による影響
冷暖房には好都合だが、揮発性の有機化合物による室内環境汚染が発生
- ・(シックハウス症候群) への対策としては十分な換気が必要

⑤騒音・遮音 音の感じ方には個人差がある!

- ・不快音→工事や車の音のような騒音と (生活騒音) *特に集合住宅では注意が必要
- ・対策:(遮音) -厚い壁, 二重窓, 天井・床・壁などに遮音材や吸音材を取りつける
その他の対策や工夫を挙げてみよう (ピアノの練習などは時間帯などを決めておく。)

▼ 教科書 p.164~169

③これからの住生活(1、持続可能な住居 / 2、社会環境と住居)

1 日本の住宅寿命について、欧米諸外国に比べて短い理由を挙げよう。また、住宅寿命を延ばすためにはどうすればよいか、考えよう。 TRY

①理由	②寿命を延ばすためには
<ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿などの気候風土。 ・木材など耐久性の高くない材料使用。 ・ライフスタイルの変化による住欲求の対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐久性の高い木材へ切り替え。 ・維持、管理の見直し。 ・リフォーム、コンバージョン(用途返還)。

3 日本の住宅事情の変化について、正しいものには○を、間違っているものには×を付けよう。

- ①高度経済成長期には流入する都市部の人口を支えるために狭小な住宅が大量に造られた。 (○)
- ②都市部では地価が高く、郊外に住居を構えることになり、通勤時間が長くなるなどの問題がある。 (○)
- ③住宅への需要は、「質」的な充実から「量」的な充実に変化している。 (×)
- ④最低居住水準の住宅は減少傾向で、誘導居住水準以上の住宅は増加し続けている。 (○)

4 さまざまな住まい方について、次の言葉の説明を選択肢から選び、記号で答えよう。

- ①シェア・ハウジング (ウ)
- ②コレクティブハウジング (イ)
- ③コーポラティブハウジング (ア)

AETC10000	<p>ア 住み手自身が計画段階から集合住宅づくりに参画する。</p> <p>イ 独立した専用の住居を持ち、住生活の一部を共同化する住まい方。</p> <p>ウ 個室を持ちプライバシーを確保しながら、リビングやキッチン、浴室などの空間と家財を共有する住まい方。</p>
-----------	---

第8章 経済生活を営む

▼ 教科書 p. 170～171

① 職業生活を設計する (1、経済的に自立する / 2、長期の職業設計)

1 雇用形態について、次の言葉を説明している文章を選択肢から選び、記号で答えよう。

正社員 (正職員)	非正規雇用			
	アルバイト	パート	契約社員	派遣社員
① オ	② イ	③ ウ	④ エ	⑤ ア

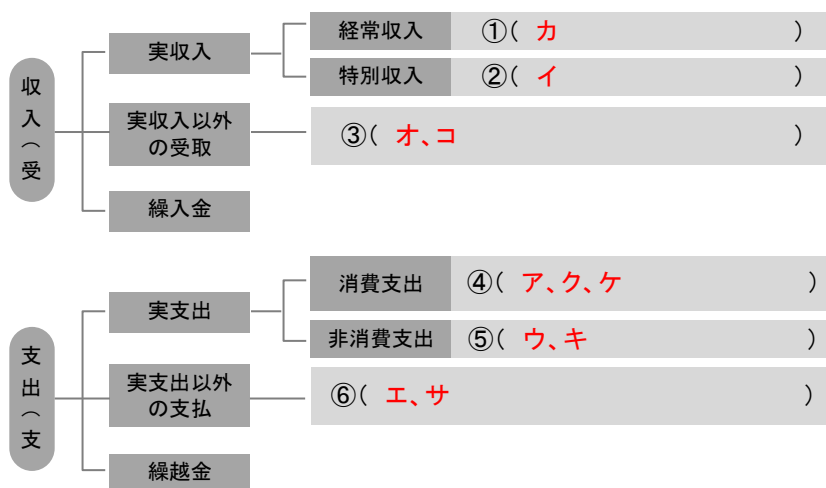
選択肢	ア 雇用主は派遣元企業だが、別の会社 (派遣先企業) に派遣されて働く働き方。登録型と常用型があり、登録型は短期の働き方である。
	イ 時間単位の働き方。臨時的なことが多い。
	ウ 時間単位の働き方。短時間のことが多い。
	エ フルタイムの有期雇用。契約期間は最長3年。
	オ 雇用契約期間の定めがない雇用。多くの場合、昇給や賞与 (ボーナス)、退職金や各種手当などの給与制度があり、社会保険に加入できる。

▼ 教科書 p. 172～175

② 計画的に使う① (1、収入と支出を知る / 2、家計のマネジメント)

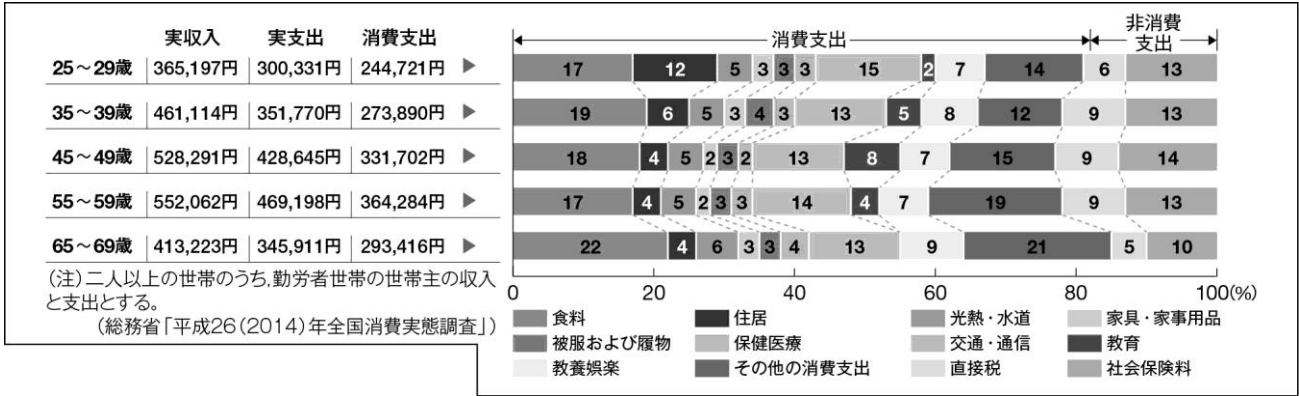
1 収入と支出について、まとめよう。

(1) 次の区分に当てはまる項目を選択肢から^{すべて}選び、記号で答えよう。



選択肢	ア 光熱・水道
	イ 受贈金
	ウ 税金
	エ 預貯金
	オ 預貯金引き出し
	カ 勤め先収入
	キ 社会保険料
	ク 教養娯楽費
	ケ 保健医療費
	コ 土地家屋借入金
サ 土地家屋借入金返済	

2 ライフステージ別実支出の内訳について、次のグラフを見て、気づいたことを書こう。



- ・ 45～49歳→教育費(増)
- ・ 25～29歳→住居費(高) (賃貸)
- ・ 65歳以上→実収入(減)、食料費・教養娯楽費(増)

3 給与明細について、問いに答えよう。

支給額	基本給	役職手当	住宅手当	家族手当	時間外手当(125%)	時間外手当(150%)	通勤費		総支給額
	212,500	0	15,000	0	19,560	0	16,070		263,130
勤怠	残業時間(125%)	残業時間(150%)	遅刻早退回数						
	12	0	0回						
控除額	健康保険料	厚生年金保険料	雇用保険料	介護保険料	所得税	住民税	労働組合費		控除額
	9,306	19,221	1,315	0	5,410	11,100	2,000		48,352
									差引支給額
									214,778

(1) 次の文章の空欄に当てはまる言葉を答えよう。

可処分所得とは、① (実) 収入から② (税金) や③ (社会保険料) などの非消費支出を差し引いた、自分で自由に使い道が決められる金額で、いわゆる④ (手取り) 額のことである。

(2) 上の給与明細から、可処分所得を計算しよう。

可処分所得＝総支給額－(社会保険料の合計＋税金の合計)

計算： ① (263,130) 円 ② (29,842) 円 ③ (16,510) 円

→可処分所得④ (216,778) 円

(3) 就職1年目に関係のない項目は何か、答えよう。(住民税)

(4) 40歳から関係してくる項目は何か、答えよう。(介護保険料)

▼ 教科書 p. 178～184

④ 現代社会の消費生活（ 1、契約と契約トラブル / 2、消費者をめぐる問題 ）

1 契約について、次の文章の空欄に当てはまる言葉を答えよう。

法律で保護された約束事を契約という。契約は、当事者の①（ 合意 ）、つまり申し込みと承諾の意思表示の合致によって成立するため、②（ 口頭 ）でのやりとりだけでも成立する。いったん契約が成立すると、双方に③（ 債権 ）（権利）と④（ 債務 ）（義務）が発生し、契約を守らない相手に対しては、⑤（ 損害賠償 ）や裁判所に強制執行を求めることができる。

契約に関するトラブルを避けるために、契約書を読み、契約条件を確認したうえで契約を結ぶことが大切である。しかし、消費者は、商品情報や契約に関する知識において不利な立場にあることから、⑥（ クーリング・オフ ）、中途解約、取消などの消費者保護制度がある。

法律上、未成年者は⑦（ 行為能力 ）がないとされ、契約行為には制限がある。保護者などの⑧（ 法定代理人 ）の同意のない契約は、本人または⑧の申し出により取消ができる。

2 消費者信用について、問いに答えよう。

(1) 次の文章が説明している言葉を答えよう。

- ①消費者の信用をもとに商品代金を後払いすること。 (販売信用)
- ②金融機関や金融業者から金銭を借りる取引。 (消費者金融)
- ③①と②を合わせた名称。 (消費者信用)

3 多重債務に陥ったときの、債務の整理方法を4つ答えよう。

①（ 任意整理 ）→②（ 特定調停 ）→③（ 個人再生手続き ）→④（ 自己破産 ）

4 次の文章が説明している悪質商法名を選択肢から選び、記号で答えよう。

- ① 友人などを装って送られてきたメールに返信したり、URLをクリックしたりすると、突然アダルト系サイトの画面に接続し、不当な利用料金を請求される。 (イ)
- ② 通信販売やインターネットオークションで、代金を前払いしたにもかかわらず、商品の引き渡しが行われず、販売者が音信不通になる。 (オ)
- ③ 商品を買って会員になり、友人知人に売ったり、友人知人を紹介すればお金がもらえ、加入者を増やすことで、大きな利益が得られると勧める。 (ウ)
- ④ 商品を勝手に送りつけ、代金を請求する。代金引換郵便を悪用することもある。 (ア)
- ⑤ 無料体験、無料サービス、無料招待などと無料で誘って契約させる。 (エ)

選択肢	ア ネガティブオプション	イ ワンクリック詐欺	ウ マルチ商法
	エ 無料商法	オ ネットショッピング詐欺	

⑤ 消費者の権利と責任

1 次の法律を説明している文章を選択肢から^{すべて}選び、記号で答えよう。

- ①消費者契約法（2001年施行）（イ） ③製造物責任法（PL法，1995年施行）（ウ）
 ②預金者保護法（2006年施行）（カ） ④消費者基本法（2004年施行）（ア、エ、オ）

選択肢

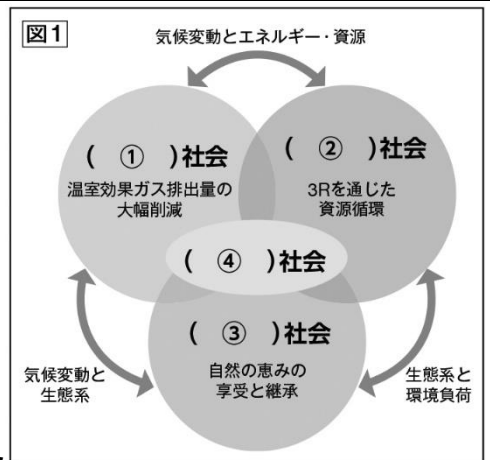
- ア 消費者の権利の尊重と消費者の自立支援が基本的理念である。
 イ 事業者からの情報提供や勧誘行為が不適切な場合について、消費者の取消権を定めている。
 ウ 製造物の欠陥によって生命、身体または財産に損害を受けた場合、被害者が製造者に損害賠償を求めることができる。
 エ この法律に基づき消費者基本計画（5年ごとに改訂）が進められる。
 オ この法律は、消費者保護を中心としていた消費者保護基本法が改正されたものである。
 カ 預金者の重過失がない場合に、キャッシュカードの偽造や盗難による預金の損害を金融機関が負担し、預金者を保護する法律。

▶ 教科書 p. 185～191

⑥ これからの消費生活と環境

1 これからの消費生活と環境について、**図1**の空欄に当てはまる言葉を答えよう。

- ①（**低炭素**）社会 ②（**循環型**）社会
 ③（**自然共生**）社会
 ④（**持続可能な**）社会



2 次の持続可能な社会に関わるラベル、マークの名称を答えよう。



- ①（**エコマーク**） ②（**統一省エネルギーラベル**） ③（**カーボンフットプリントマーク**）
 ④（**グリーンマーク**） ⑤（**フェアトレード認証マーク**）

3 次の5つの「R」の意味と、日常生活で自分ができることをまとめよう。

また、このうち「3R」に当てはまるもの^{すべて}に○を付けよう。

		意味	3R
リデュース	Reduce	① 破棄物を減らす	○
リユース	Reuse	② 製品や資源を再使用する	○
リサイクル	Recycle	③ 資源を再生利用する	○
リフューズ	Refuse	④ 不要なものを断る	
リペア	Repair	⑤ 修理して使う	

第3章 高齢社会に生きる / 第4章 共に生き、共に支える

重要ワード CHECK!

次の文章が説明している言葉を答えよう。

1	65～74 歳の高齢者。	前期高齢者
2	高齢者人口割合が 14%を超える社会。	高齢社会
3	後天的な脳の病気により知的機能が全般的・持続的に低下し、日常生活に支障を生ずる状態。	認知症
4	より知識が増え、経験を積み、豊かな人間関係を築き、より総合的な判断ができるようになる過程。	成熟
5	年齢に基づく差別。	エイジズム
6	介護の社会化を目指す仕組みとして 2000 年から導入された制度。	介護保険制度
7	年金制度のうち、日本に住所を持つ 20 歳以上 60 歳未満の者が全員加入するもの。	国民年金
8	家族の中で高齢者が高齢者を介護すること。	老老介護
9	寝たきりや認知症にならず、自立して健康な日常生活を送ることができる期間。	健康寿命
10	経済的・物質的な豊かさだけでなく、生活や心身、生命などあらゆる面での満足感や幸福感などの精神的な豊かさも含む概念（アルファベット 3 文字）。	QOL
11	年齢や障がいなどの特性にかかわらず誰もが普通に暮らせる共生社会を目指す理念。	ノーマライゼーション
12	高齢者や障がいのある人の社会参加を妨げる障壁をなくす取り組み。	バリアフリー
13	高齢者や障がいのある人だけでなく、 ^{すべて} 全ての人に使いやすい設計。	ユニバーサルデザイン
14	個人や家族などが、自らの責任と努力でリスクや問題に対応すること。	自助
15	国や地方公共団体などによる生活の保障。	公助
16	地域の気候や風土などの自然環境と調和し、健康で快適に生活できるようにすること。	環境共生
17	個人や家族が抱えるさまざまな生活上の課題を、人々が住む地域社会において、政策的にも日常的にも解決していこうとすること。	地域福祉
18	自分の技能や時間、労力などを家族以外の人に自主的に無報酬で提供する活動。	ボランティア活動
19	自然災害による被害を予測して、その被害範囲を地図に示したもの。	ハザードマップ
20	災害から身を守るため、安全な場所に避難するなどの一連の防災行動をとる際に、支援を必要とする人々。	災害時要支援者

第7章 住生活をつくる

重要ワード **CHECK!**

次の文章が説明している言葉を答えよう。

1	食事室と寝室を設けるなど、食事の場と就寝の場を分けること。	食寝分離
2	住宅内に部屋の配置を計画すること。またその結果の状態。	間取り
3	人が移動する軌跡。	動線
4	物件の賃貸契約時にかかる費用のうち、家賃未払いや設備破損等に対する保証金。	敷金
5	物件の賃貸契約時にかかる費用のうち、家主への謝礼。原則として返却されない。	礼金
6	室内に熱や湿気がこもり、室内外の温度差が大きくなると水滴が付着する現象。	結露
7	建材や家具の接着剤などに含まれる揮発性の有機化合物などにより、めまいや吐き気、頭痛などの体調不良や症状が見られること。	シックハウス症候群
8	人体の寸法を基に、手足の動きを加えた空間の大きさ。	動作寸法
9	不特定多数の人々が利用する建物について、高齢者や障がい者が円滑に利用できるよう基準を定めた法律。	ハートビル法
10	9と交通バリアフリー法を統合して2006年に施行された、まち全体のバリアフリー化を進める法律。	バリアフリー新法
11	エネルギーや資源を効率的に活用し、周囲の自然と調和する住宅。	環境共生住宅
12	建築物の用途変換。ガスタンクを集合住宅にする、土蔵や町家をカフェにするなどの事例がある。	コンバージョン
13	建物の骨格・構造体と内装・設備を分けて造り、建物自体は長持ちさせつつ、住み手のライフステージに応じて内装・設備を自由に変更できるようにしたもの。	スケルトン・インフィル方式
14	2006年施行。健全な住宅市場の整備と、国民の住生活の「質」を向上させるストック重視の法律。	住生活基本法
15	健康で文化的な住生活の基礎として必要不可欠な住宅の面積に関する水準。	最低居住面積水準
16	世帯人数に応じて、豊かな住生活の実現の前提として多様なライフスタイルに対応するために必要と考えられる住宅の面積に関する水準。	誘導居住面積水準
17	個室を持ちプライバシーを確保しながら、リビングやキッチンなどの空間と家財を共有する住まい方。	シェア・ハウジング
18	独立した専用の住居を持ちながら、住生活の一部を共同化する住まい方。	コレクティブハウジング
19	住み手自身が計画段階から自分たちだけの集合住宅づくりに参画する住まい方。	コーポラティブハウジング
20	住民の視点で住環境を整える取り組み。緑化や震災復興、公園の整備などがある。	まちづくり

第8章 経済生活を営む

重要ワード CHECK!

次の文章が説明している言葉を答えよう。

1	主として、収入と支出の観点から家庭の経済行為を捉えるもの。	家計
2	収入のうち、資産を実質的に増やすもの。	実収入
3	支出のうち、税金や社会保険料などの世帯の自由にならない支出。	非消費支出
4	勤め先収入から税金や社会保険料を差し引いた、自分で自由に使い道が決められる額。手取り額。	可処分所得
5	加入者相互で保険料を払い、リスクが発生した場合に保険金等が給付される仕組み。	保険
6	金融商品の購入・投資に充てた資金の額が、運用で減少してしまうこと。	元本割れ
7	不意打ち性がある訪問販売などの取引で契約した場合、一方的に契約の解除ができる制度。	クーリング・オフ
8	不適切な勧誘で消費者が「誤認」や「困惑」して契約した場合、取消ができることを定めた法律。	消費者契約法
9	クレジットカードでの支払いのように、消費者の信用をもとに商品代金を後払いすること。	販売信用
10	キャッシングやローンのように、金融機関や金融業者から金銭を借りる取引。	消費者金融
11	複数の消費者金融からお金を借りて返済に追われ、返済不能になること。	多重債務
12	債務の整理方法のうち、債務者が裁判所に申し立て、財産を債権者に分配した後、残った債務を免除してもらう方法。財産と社会的信用を失う。	自己破産
13	店舗を構えずに、商品を販売する方法。	無店舗販売
14	13の1種で、電子的な通信手段を利用した商取引全般のこと。	電子商取引
15	訪問販売や電話による執拗な勧誘などで、消費者側に不利益や被害のある契約を迫る商法。	悪質商法
16	内閣府の外局に設置され、消費者問題対応の中心となる行政機関。	消費者庁
17	都道府県・市区町村により設置され、消費生活に関する相談窓口や情報提供などを行う機関。	消費生活センター
18	消費者が、環境や社会全体に与える影響まで考え、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会のこと。	消費者市民社会
19	環境全体を考えた行動や商品選択、意思決定などをする消費者。	グリーンコンシューマー
20	開発途上国の人々との対等な関係と環境保護を目指し、適正な価格で取引すること。	フェアトレード